

【血管撮影部門】

●血管撮影とは？

当院、血管撮影室では、脳血管疾患、心血管疾患、末梢血管疾患などに対する血管造影検査およびカテーテル治療を実施しています。

最新の血管撮影装置を用い、高精細な画像による診断と低侵襲なカテーテル治療を提供しています。カテーテル治療は、足の付け根や手首などの血管から細いカテーテルを挿入して行うため、患者さんの身体への負担を軽減するとともに、安全性と治療精度の向上に努めています。

24 時間 365 日、救急医療を支える体制

当院では、急性期医療を担う病院として、**脳卒中や急性心筋梗塞などの緊急疾患に 24 時間 365 日対応**しています。医師、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士などの専門スタッフが 24 時間オンコール体制を構築し、救急搬送から画像診断、カテーテル治療まで迅速に対応します。

特に、急性期脳梗塞に対する血栓回収療法では、「Time is Brain（時間との勝負）」という考えのもと、1 分 1 秒でも早く治療を開始できるよう、院内の各部門が密接に連携しています。

AI 画像解析による迅速な治療判断

当院では、CT や MRI 画像を用いた AI 画像解析システムを活用し、脳血流や虚血領域、救済可能な脳組織（ペナンプラ）を迅速に評価しています。

画像解析結果は、医師が血栓回収療法の適応を判断する際の重要な情報として活用され、治療開始までの時間短縮と診断精度の向上に役立てられています。

また、CT・MRI・血管撮影室が密接に連携することで、画像検査から治療まで切れ目のない診療体制を構築しています。

主な検査・治療

- 脳・心臓・全身の血管撮影検査
- 急性期脳梗塞に対する血栓回収療法
- 脳動脈瘤コイル塞栓術
- 頸動脈ステント留置術（CAS）
- 冠動脈インターベンション（PCI）
- 末梢血管インターベンション（EVT）
- 血管塞栓術（出血・腫瘍など）
- 各種カテーテル治療

放射線部門の取り組み

診療放射線技師は、24 時間オンコール体制のもと、救急画像診断から血管内治療まで一貫して診療を支えています。

AI 画像解析や最新の画像処理技術を活用し、迅速で精度の高い画像提供に努めるとともに、最新の血管撮影システムを 2026 年 1 月より導入し、高精細な画像と先進の画像処理技術を活用することで放射線被ばく低減や造影剤使用量の適切な管理、安全管理体制の充実に取り組んでいます。

血管撮影室では、脳神経外科、循環器内科、救急部門、看護部、臨床工学部門、放射線部門が一体となり、地域の救急医療を支える高度な血管内治療を提供しています。

患者さんに安心して検査・治療を受けていただけるよう、安全性・迅速性・専門性を兼ね備えた医療の提供に努めています。

年間の血管造影・カテーテル治療件数（令和 7 年度 実績）

血管撮影の件数は、年間約 750 件の検査・治療を実施しています。（循環器内科約 400 件、脳神経外科約 270 件）

脳卒中（脳梗塞）の急性期治療、血栓回収術においては、県内トップの年間約 50 件実施しています。冠動脈インターベンション（PCI）においては、約 200 件以上、実施しています。

●装置

頭頸部、腹部、四肢 IVR (Interventional Radiology)専用装置 2026 年 1 月より 新装置導入
[Azurion 7 B20 (PHILIPS)] FPD 搭載型フルデジタル装置



心臓血管専用装置

[Trinias (島津製作所)] FPD 搭載型フルデジタル装置



資格取得

（医師）

脳血管内治療学会専門医、指導医

日本心血管インターベンション治療学会専門医

（技師）

日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師